

幼稚園児を有する母親像についての数量化3類による評価

○熊谷伸子* 芳住邦雄* 児玉好信** 萩村昭典***

(*共立女大院, **共立女短大, ***文化女大)

目的：近代家族の危機・崩壊に関連して少子化、核家族化、シングルマザーの増加等がその源として挙げられている。これらに基づいて家族の全体像を研究してた成果も少なくない。しかし家族というフレームワークの中における、それぞれの役割変化に着眼した研究は、大変乏しい現状にある。本研究では母親像の解明を目的として、その全体の多次元構造が明らかに出来ると共に、その構造の中において個人を位置づけることの出来る数量化3類を分析に用いた。すなわち、行動意識の現出として、コミュニケーション機能を果たす着装行動から、幼稚園児を持つ現代の母親像を本研究では明らかにする。

方法：予め幼稚園児の母親の服装を7パターンに類型化した。これらを判断するのに適切であると思われる25語を抽出し、女子大生22名を被験者として5段階評価を行った。解析には数量化3類を用いた。

結果：各パターンに対する評価の結果をを1つのデータとしてまとめて数量化3類により構造化した結果、25項目による2次元の構造を見出すことが出来た。これを2次元平面に表示してみると、1軸は個人の嗜好の対立軸でありフォーマルとカジュアルの要因によって構造化されることがわかった。さらに、2軸は社会的な流行への適応の軸であり、目立つないしは先端的なと地味ないしは流行遅れという要因によって構造化されていることがわかった。また、各パターンごとに個人分布を2次元平面上に位置付けてみると、それぞれの着装の特徴がよく表されていることが判明した。